

補助資料

「走れメロス」を読み取ろう

学習日 月 日

二年()組()号()

空白部分を創作しよう

《根拠となる言葉》・セリヌンティウス
「私はこの三日の間、たった一度だけ、
ちらと君を疑った。」

《台詞》

フィロストラトス

「セリヌンティウス様、もうメロス様
は来られないのではないですか。」

セリヌンティウス

「いや、メロスはそんな男ではない。
私は信じている。」

フィロストラトス

「しかし、王様もメロスは来ないとお
っしゃっていたではありませんか。」

セリヌンティウス

「・・・」

手順

根拠となる言葉をおさえる。

台詞を考える。

ト書きを考える。

表現の工夫をする。

「走れメロス」で使われている
表現の工夫を取り入れて書く。

セリヌンティウスはただひたすら待
ち続けた。友の帰りを待つて待つて待
ち続けた。しかし、時間はどんどん進
んでいく。とうとう三日目の朝がやつ
てきた。昨日までの雨はうそのように
やんで、空は晴れわたっている。今日
の日没までにメロスがやって来なかつ
たら、私ははりつけ台にのぼらねばな
らぬ。しかし、メロスが帰ってこない
わけがない。私はメロスを信じている。
夕方が近づいてきたとき、フィロスト
ラトスが面会に来てくれた。
「セリヌンティウス様、もうメロス様
は来られないのではないですか。」
「いや、メロスはそんな男ではない。
私は信じている。」
「しかし、王様もメロスは来ないとお
っしゃっていたではありませんか。」
いや、メロスは来る。きっと来る。そ
う信じている。しかし、それをフィロ
ストラトスに自信をもって言えない自
分がいる。フィロストラトスも王も、
メロスは来ないと言う。来ると信じて
いるが、いや、しかし、それならばも
う着いてもいい頃ではないのか。いつ
たい、メロスはどうしたのか。もしま
来ないのか。私は裏切られたのか。
あと少して日没が近づいてきた。私の
家族はどうしているだろう。嘆き悲し
んでいるのではないだろうか。あの扉
が開かれれば、私は刑場へ連れて行か
れる。ああ、メロスよ。